

という事なしにその声を早合点した親達が幼稚園へ移動し始めました。中には明らかに長時間の保育を要すると思われる家庭状況の者まで「学校前ですから」の理由で希望して来る状態でした。そこで選抜の方法を一層慎重に考えなくてはならなくなりました。受付順も正当ではなくなりました。兎に角「就学前の教育」という事を学校への準備教育だと早合点した連中の多くなつた事は確かでした。「六人に一人」「五人に一人」の競争率も年毎に増加した幼稚園の御蔭で段々と緩和されて来ました。現在では市内七ヶ所の幼稚園がそれぞれ地区的に円満な募集を行い満員の状態をしています、今年になって特に目立ったのは県下全般に亘って幼児数の激減した事で関係者は産児制限による影響だと見て居ります。入園選抜方法は各園とも一応幼児をテストする事にして居りますが父兄の面接も重視しています私立の経営は父兄の協力に待つものが多いからです保育方針に対する協力も求めます。希望者のすべてを入園させ度いのが願でありますので最大限をとの考から許されぬ事でしょうけれども一組五十名(但年長児)を一名助手一名で保育しています兎に

角市当局の熱意を待ち公立を設け或は私立幼稚園の増設等により希望者全員の入園を見る日の一日も早い事を祈って居りました然し私達幼稚園会に於てはお互に協力し「いかさま幼稚園」の誕生を防がなくてはならないと考えて居りますそれは幼稚園の数が少ないという事より以上に恥しい事になるだろうと思うからです現在に於てはおよそ理想とはほど遠いあまりにもかげはなれた実状ではあります。がやはり理想を捨てずさやかな集りながら手を取り合つて一步一步を進めて行こうと努力して居ります。幸に子供達が恵まれた自然のもとに健やかに育つてくれます事を有難い事だと感謝して居ります。

(高知女子大学附属幼稚園)

— 福岡県 —

入園選抜の方法につき

遠藤 艶子

当地区にては六七園の公私立の幼稚園で北九州幼稚園連盟を組織し、研究及親睦連絡機

関としていますのでその中の二三園の例をおしらせしお答えと致します。

Y市の或園

選抜方法として幼児には体格検査と田中ピネー式テストを行い地域的に考慮をばらう。父兄には面接及び幼児教育に対する認識の程度を簡単に筆記検査

募集期間 一日

入園志望者の率

昭和二八年度募集人員に対し一倍半

二九年度には二倍、三〇年度は少々多い程度

T市の或園

選抜方法は願書を四〇〇枚に制限する

入園者数 二五〇名

募集期間 一日

願書をうけに来園の折親子一緒に面接する。

後日幼児に、体格検査と田中ピネー式テスト

を行い選抜する。

K市のミッシヨン系の或園

募集期間 一日

願書を三〇〇枚に制限して入園者二五〇名を選抜する。方法として、幼児には体格検査を行い結核性の小児はことわる。家庭事情を書類にて調査する。知能テストをなし、知能は

高くとも集団生活に適さない性行の者はことわるが問題児は研究としてとる。

市立小倉幼稚園

募集期間 四日

募集人員 三二〇名（昭和二八年度より一年保育のみに切替）

選抜方法 幼児には体格検査の結果集団生活に適さない者をことわった後抽籤器にて選抜決定する。入園決定後保育の参考にする為、父兄面接及び幼児に知能テストを行う。

入園志望者

昭和二八年度 定員二〇〇に対し五二八（一年保育のみ）

二九年度募集人員三二〇に対し五六〇名、三年度募集人員三二〇名で現在未定です。

当市には公立幼稚園一 私立幼稚園一七の現状で、幼児教育の要望は近年ますます上り、志望者多数の為二八年度より一ケ年保育に切替て今日に至っています。けれど幼児の成長発達過程の研究する為には是非二年保育児を取容したいとおもいます。

又一方公立幼稚園新設の要望もあり施設の増設にも努力中でございます。

（小倉市立小倉幼稚園）

長崎市における幼稚園の入園状況

荒木 志保

七、その他の問題点

1、昭和三十年年度の応募状況

○即日満員○三日―五日位で○一ヶ月位で○未だ定員に充たぬ（三月現在）

2、応募率の高低と幼稚園からの就学率は正比例する。市の中央は幼稚園からの就学率は六〇%、周辺に行くに従って5%位の処もある。

3、必要な箇所設立されず位置がかたやり過ぎてゐる。

4、定員の二割三割と多く園児を入れ過ぎる。等、

県下の幼稚園を調査する時間の余裕がありませんでしたので市内のみにとどめました。

（長崎市玉ぞの幼稚園）

秋の運動会がすんで伊木力（だんだん畑でみかんの名産地）みかんが、あたかも花が咲いたように色づく頃になりますと、そろそろ来年度入園の園児募集が話題にのぼって参ります。長崎県下公立幼稚園十五、私立幼稚園四十二のうちで長崎市内公立三私立二十五という状態で県下の約半数をしめています。この最近の入園状況を御報告してみましよう。

	昭和二十八年年度	昭和二十九年年度	昭和三十年年度
一、応募人数	募集人員の約三倍 二五一八	四倍 三五〇四	平均して募集人員を充たす程度 四三六〇
二、募集年月日	九月―翌年 三月迄	同 上	昭和二十九年十一月一日に市内私幼全部募集を開始した。公立のみ三十年一月に行つた。
三、選考方法	知能テストと身体検査 願書受付順と身体検査 身体検査のみ行う	同 上	同 上
四、幼稚園数	十九ヶ園	二十五ヶ園	二十九ヶ園
五、競争実状	入園希望者が逐年増加するのみに二年保育のみしたので募集する園が増加した人員がふえた	前年度入園難の保護者多数に願書を提出したため実数以上応募	デフレと幼稚園増設、むしろ乱立を生じて来た。